No.

レディーミクストコンクリート配合計画書

2026年 4月 1日

広島県府中市高木町1565番地

高月ナマコン株式会社

配合計画者名　高垣　泰博

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月21日～6月10日，9月21日～11月30日。左記以外の期間は備考欄に記述 (標準配合)
ｺﾝｸﾘｰﾄの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	ｾﾒﾝﾄの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB －
指定事項（任意）	骨材のｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装ｺﾝｸﾘｰﾄの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	－℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水ｾﾒﾝﾄ比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55％
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位ｾﾒﾝﾄ量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm
	空気量	4.5％		

使用材料

セメント	生産者名	太平洋セメント株式会社	密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq ％	－	
混和材①	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq ％	－
混和材②		－		－		－		－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分	試験方法	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³ 絶乾	密度 g/cm³ 表乾	微粒分量の範囲％
細骨材	①	砕砂	広島県府中市荒谷町	A	化学法	5以下	2.95	－	2.65	5.0±2.0
	②	加工砂	仁多郡奥出雲町産（中）	A	モルタルバー法	5以下	2.75	2.50	2.57	3.0以下
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石2010	広島県府中市荒谷町	A	化学法	20～15	7.00	－	2.70	0.5±0.5
	②	砕石1505	広島県府中市荒谷町	A	化学法	15～5	6.35	－	2.70	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	④	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリック SV10	種類	AE減水剤(標準形Ⅰ種)	Na_2Oeq ％	1.0
混和剤②		－		－		－
混和剤③		－		－		－

細骨材の塩化物量	－ ％	水の種類	地下水・上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－ ％
回収骨材の使用方法	細骨材 －	粗骨材	－	ｽﾗｯｼﾞ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
328	－	－	174	504	324	－	481	483	－	－	3.61	－	－

水セメント比	53 ％	水結合材比	－ ％	細骨材率	47.0 ％

備考	骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比（容積混合）	細骨材60:40 粗骨材(2010)50:(1505)50

修正標準配合として次に示す適用期間の間、混和剤の単位量のみ変更致します
夏期適用期間の混和剤入替に伴い、1週間位前から混和剤遅延形もしくは標準形を使用します。
[夏期] 6月11日～9月20日：標準配合に対し、AE減水剤＋20%，高性能AE減水剤＋10%
[冬期] 12月1日～3月20日：標準配合に対し、AE減水剤－25%，高性能AE減水剤－15%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB −
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	− kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	− ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	− kg/m³
	塩化物含有量	0.30 kg/m³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	− kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	− cm
	空気量	4.5 %		

(1)変動係数(v)　　当工場の実績により　v = 10　%

(2)配合強度(m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3 \cdot V}{100}} = 1.21 \qquad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2 \cdot V}{100}} = 1.25$$

$m = \alpha_2 \times S_L = 1.25 \times 27 = 33.8$ N/mm²

よって　m = 33.8 N/mm²

(3)水セメント比(W/C)　$m = -16.2 + 26.5 \times C/W$

$W/C = 26.5 \div (33.8 + 16.2) \times 100 = 53$ % ≦【55%(上限値)】

∴W/C = 53 %

(4)単位水量(W)　　当工場の実績により　W = 174 kg/m³

(5)単位セメント量(C)　　C = W ÷ (W/C) × 100 = 174 ÷ 53 × 100 = 328 kg/m³

Cv = C ÷ 密度 = 328 ÷ 3.04 = 108 L/m³

(6)空気量(A)　　A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m³

(7)単位粗骨材量(G)　当工場の実績により　かさ容積 = 0.615 m³/m³　実積率 = 58.0 %

Gv = 0.615 × 1000 × 58.0 ÷ 100 = 357 L/m³

G1v = Gv × 50.0 % = 178 L/m³　　G1 = G1v×表乾密度 = 178 × 2.70 = 481 kg/m³

G2v = Gv × 50.0 % = 179 L/m³　　G2 = G2v×表乾密度 = 179 × 2.70 = 483 kg/m³

(8)単位細骨材量(S)　　Sv = 1000 − (W+Cv+Gv+A) = 1000 − 684 = 316 L/m³

S1v = Sv × 60.0 % = 190 L/m³　　S1 = S1v×表乾密度 = 190 × 2.65 = 504 kg/m³

S2v = Sv × 40.0 % = 126 L/m³　　S2 = S2v×表乾密度 = 126 × 2.57 = 324 kg/m³

(9)細骨材率(s/a)　　s/a = Sv ÷ (Gv+Sv) × 100 = 47.0 %

(10)単位混和剤量(Ad)　　Ad = C × 添加率 = 328 × 1.1000 % = 3.61 kg/m³

配合表　kg/m³

セメント	混和材 ①	混和材 ②	水	細骨材 ①	細骨材 ②	細骨材 ③	粗骨材 ①	粗骨材 ②	粗骨材 ③	粗骨材 ④	混和剤 ①	混和剤 ②	混和剤 ③
328	−	−	174	504	324	−	481	483	−	−	3.61	−	−

水セメント比	53 %	細骨材率	47.0 %	骨材混合比(容積混合)	細骨材60:40 粗骨材(2010)50:(1505)50

備考